

第5次新座市総合計画実施計画 事務事業評価シート (対象：令和6年度実施事業)

1 事業基礎情報 (Plan)						3 事業評価 (Check)					
基本政策		第2章 基本政策2 生きる力と生きがいを育むまち【教育文化】				事業の実施状況		B		A：計画以上に実施 B：計画どおりに実施 C：計画どおりに実施できず	
施策領域		第5節 文化芸術				事業の必要性 【市民ニーズ】		A		A：高まっている B：変わらない C：薄れている	
施策項目		施策2 文化財の保存・活用				事業の効率性 【見直す余地】		B		A：余地はない B：余地はある	
事業		文化財調査				施策への貢献度		A		A：貢献している B：やや貢献している C：貢献の度合いが低い	
所属		歴史民俗資料館				事業の成果・分析		市内遺跡確認調査の件数は、当初に想定していた26件を上回った。コロナ禍以降、開発行為等が復調しており、今後も調査件数は同程度かそれ以上で推移すると考えられる。埋蔵文化財を保護するためには、まず確認調査が必要となるので、国庫・県費補助金を得ながら着実に実施していく必要がある。 大和田力ミ遺跡については、第11～15地点の遺物整理作業を進め、報告書刊行に向けて事業を推進した。引き続き、令和10年度の印刷製本を目標に整理作業を進めていく。			
事業概要		各種文化財の基礎的な調査及び資料の整理並びに文化財の保護を図るため、発掘調査等を行う。									
実施形態		■市が直接実施 ■一部委託 □全部委託・指定管理 □その他									
実施根拠		■国・県の制度 □国・県の制度＋市独自の制度 □市独自の制度									
根拠法令等		文化財保護法や新座市文化財保護条例などの法律・条例									

2 事業実績 (Do)						4 事業の今後の方向性・取組方針 (Action)										
年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度		今後の方向性		Ⅱ I：事業規模拡大 II：改善しながら継続 III：現状のまま継続 IV：事業規模縮小 V：事業廃止 VI：事業終了		
予算・決算	予算現額(円)		45,230,000		48,034,000											
	財源内訳	一般財源	43,730,000		46,534,000											
		特定財源等	1,500,000		1,500,000											
	支出済額(円)		44,481,341		47,157,667											
	不用額(円)		748,659		876,333											
執行率(%)		98.34%		98.18%												
実施内容		国庫・県費補助金を受けながら、市内遺跡確認調査を27件実施した。大和田力ミ遺跡等、過去に発掘調査を実施した遺跡の出土品等について、整理作業を進めた。										今後の取組方針		市内での開発行為等が多ければ、それに応じて確認調査の件数も増える。国庫・県費補助金の増額要望も検討しながら、事業を継続していく。 大和田力ミ遺跡については、令和7年度に第11～14地点の報告書編集、令和8年度に同書印刷製本と第15地点の整理作業、令和9年度に同地点の報告書と遺跡群全体の総括報告書の編集、令和10年度に同書印刷製本をして、事業完了となる予定である。 これまでの発掘調査の成果は、各遺跡ごとにホームページやリーフレットの作成を行い、積極的に情報発信を行う。		
年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度						
活動指標・成果指標	指標名	単位														
	確認調査	件	24		27											

第5次新座市総合計画実施計画 事務事業評価シート
(対象：令和6年度実施事業)

1 事業基礎情報（Plan）							3 事業評価（Check）									
基本政策		第2章 基本政策2 生きる力と生きがいを育むまち【教育文化】					事業の実施状況		B		A：計画以上に実施 B：計画どおりに実施 C：計画どおりに実施できず					
施策領域		第5節 文化芸術					事業の必要性 【市民ニーズ】		A		A：高まっている B：変わらない C：薄れている					
施策項目		施策2 文化財の保存・活用					事業の効率性 【見直す余地】		B		A：余地はない B：余地はある					
事業		文化財補助					施策への貢献度		A		A：貢献している B：やや貢献している C：貢献の度合いが低い					
所属		歴史民俗資料館					事業の成果・分析				市指定無形文化財では、各団体に対し補助金を交付することで団体の活動に必要な道具の購入、修理等の事業を補助しており、各文化財所有団体の財政負担を少しでも軽減し、文化財の保存活用に寄与していると考えます。また、市補助金以外にも、伝統芸能サポートといった助成金事業や、記録動画作成事業といった情報を積極的に団体に紹介し、市指定無形文化財を未来に残していけるように協力をしている。 平林寺防災設備保守点検事業では、新座市文化財保存事業費補助金交付要綱に基づき、総事業費の1/4を市補助金で交付し、7月と1月に年2回の保守点検を実施している。					
事業概要		文化財所有団体の保護活動に対し、補助を行う。 1 市指定文化財：武州里神楽／大和田囃子／大和田氷川神社はだか神輿／中野の獅子舞 2 県指定文化財：平林寺建造物群（惣門・三門・仏殿・中門）防災設備保守点検等 3 国指定文化財：平林寺境内林再生事業（令和7年度～）														
実施形態		■市が直接実施 □一部委託 □全部委託・指定管理 □その他														
実施根拠		□国・県の制度 ■国・県の制度＋市独自の制度 □市独自の制度														
根拠法令等		新座市文化財保存事業費補助金交付要綱 等														
2 事業実績（Do）							4 事業の今後の方向性・取組方針（Action）									
年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度		今後の方向性		Ⅱ Ⅰ：事業規模拡大 Ⅱ：改善しながら継続 Ⅲ：現状のまま継続 Ⅳ：事業規模縮小 Ⅴ：事業廃止 Ⅵ：事業終了		
予算・決算	予算現額（円）		294,000		325,000											
	財源内訳	一般財源	294,000		325,000											
		特定財源等	0		0											
	支出済額（円）		244,000		275,000											
	不用額（円）		50,000		50,000											
執行率（％）		82.99%		84.62%												
実施内容		市指定無形文化財では市指定の4団体中、交付申請のあった武州里神楽・大和田囃子・大和田氷川神社はだか神輿の3団体に補助金を交付した。 平林寺の防災設備保守点検では、平成3・4年度に設置した防災設備及び自動火災報知の保守点検を実施し、総事業費の1/2を県、1/4を市補助金で交付した。 ・総事業費 422,070円 1/4市補助金 105,000円					今後の取組方針		補助金交付に関する手続きを継続して行う。 県や様々な助成団体の情報について、積極的に情報提供を行い、各団体の活動支援を行っていく。 市指定無形文化財の記録撮影を継続し、様々な場面・媒体での公開・普及によって後継者育成の一助とする。							
年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度						令和8年度		令和9年度		
活動指標・成果指標	指標名	単位														
	市指定無形文化財補助金交付団体	団体	3		3											

第5次新座市総合計画実施計画 事務事業評価シート
(対象：令和6年度実施事業)

1 事業基礎情報（Plan）						3 事業評価（Check）						
基本政策		第2章 基本政策2 生きる力と生きがいを育むまち【教育文化】				事業の実施状況		B	A：計画以上に実施 B：計画どおりに実施 C：計画どおりに実施できず			
施策領域		第5節 文化芸術				事業の必要性 【市民ニーズ】		B	A：高まっている B：変わらない C：薄れている			
施策項目		施策2 文化財の保存・活用				事業の効率性 【見直す余地】		B	A：余地はない B：余地はある			
事業		文化財保存活用				施策への貢献度		A	A：貢献している B：やや貢献している C：貢献の度合いが低い			
所属		歴史民俗資料館				事業の成果・分析		野火止用水の説明板について新たに2か所設置を行った。しかし老朽化に伴い撤去した説明板の数がそれを上回ることから、場所を厳選し再設置を行う必要がある。また、他の文化財説明板についても老朽化が見られるため優先順位を決め逐次交換を実施する必要がある。野火止用水水平林寺堀について、令和6年度は溜池の清掃及び浚渫を3回実施して、維持管理をした。清掃時期については適切な時期に実施することができた。絵画展について昨年度よりも提出数が増えており、今後も増加する場合、展示場所や方法については検討していく必要がある。				
事業概要		各種文化財の保存及び活用を図るため、野火止用水水平林寺堀の管理や文化財説明板の設置、文化財デジタル化等を行う。										
実施形態		■市が直接実施 □一部委託 □全部委託・指定管理 □その他										
実施根拠		■国・県の制度 □国・県の制度＋市独自の制度 □市独自の制度										
根拠法令等		文化財保護法										
2 事業実績（Do）						4 事業の今後の方向性・取組方針（Action）						
年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度		
予算・決算	予算現額（円）		1,925,000		1,636,000							
	財源内訳	一般財源	1,538,000		1,636,000							
		特定財源等	387,000		0							
	支出済額（円）		1,924,450		1,265,039							
	不用額（円）		550		370,961							
	執行率（％）		99.97%		77.33%							
実施内容			野火止用水見学者の利用に供するために野火止用水公園内の説明板の新規設置を実施した。当説明板は県指定史跡野火止用水の説明板であったため、事業費の1／2について県費補助金の交付を受けた。また、市内野火止七丁目に位置する野火止用水水路跡の説明板について新規設置を実施した。さらに、老朽化した野火止用水説明板5基を撤去した。野火止用水水平林寺堀について、溜池の清掃、浚渫を行い、維持管理を行った。平成24年3月に策定した「野火止用水・水平林寺の文化的景観保存計画」を啓発するため、市内小学生を対象に野火止用水沿いの絵画を募り、総数201点の展示を行った。									
年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度		
活動指標・成果指標	指標名	単位										
	文化財説明板の設置等	件	2		2							
	野火止用水水平林寺堀の清掃等	回	4		3							
今後の方向性		Ⅱ		Ⅰ：事業規模拡大 Ⅱ：改善しながら継続 Ⅲ：現状のまま継続 Ⅳ：事業規模縮小 Ⅴ：事業廃止 Ⅵ：事業終了								
今後の取組方針		設置から長期間が経過した説明板が多いことから、老朽化等により交換を要する文化財説明板がまだ多く存在している。板面の内容や設置場所、インターネットとの連携等、総合的な検討を踏まえた上で、劣化の激しいものから優先的に交換を進めていく。 県指定史跡である野火止用水の保存・活用を継続していく。 野火止用水水平林寺堀については、用水の状態、天候等を考慮した上で適切な時期に清掃を実施できるよう、施工業者と調整する。 絵画展については継続し、以前実施していた中学生部門の標語の復活も検討する。										

第5次新座市総合計画実施計画 事務事業評価シート
(対象：令和6年度実施事業)

1 事業基礎情報（Plan）							3 事業評価（Check）								
基本政策		第2章 基本政策2 生きる力と生きがいを育むまち【教育文化】					事業の実施状況		B		A：計画以上に実施 B：計画どおりに実施 C：計画どおりに実施できず				
施策領域		第5節 文化芸術					事業の必要性 【市民ニーズ】		A		A：高まっている B：変わらない C：薄れている				
施策項目		施策2 文化財の保存・活用					事業の効率性 【見直す余地】		B		A：余地はない B：余地はある				
事業		睡足軒の森運営管理					施策への貢献度		A		A：貢献している B：やや貢献している C：貢献の度合いが低い				
所属		歴史民俗資料館					事業の成果・分析				令和6年度は、当初の計画どおり市民呈茶を年3回開催した。開催時期は、協力者と調整をした上で決定するが、適切な時期に開催することで、参加者を増やせる余地がある。文化事業は、過去に行った「文化の祭典」のような大規模な事業ではないが、実施した各回で満員となった。申込方法は、電話のみとしたが、幅広い層が参加できるようにするには他の方法も設けるべきといった意見等があった。また、実施時期が11月と3月で固まってしまったため、他の事業を考慮しつつ実施時期を検討する必要がある。				
事業概要		国指定天然記念物平林寺境内林の一部であり、平林寺から貸与された睡足軒の森を青少年の体験学習の場や市民等による文化的な活動場所として活用するための運営管理を行う。													
実施形態		■市が直接実施 ■一部委託 □全部委託・指定管理 □その他													
実施根拠		□国・県の制度 ■国・県の制度＋市独自の制度 □市独自の制度													
根拠法令等		文化財保護法や新座市文化財保護条例などの法律・条例													
2 事業実績（Do）							4 事業の今後の方向性・取組方針（Action）								
年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度		今後の方向性		Ⅱ Ⅰ：事業規模拡大 Ⅱ：改善しながら継続 Ⅲ：現状のまま継続 Ⅳ：事業規模縮小 Ⅴ：事業廃止 Ⅵ：事業終了	
予算・決算	予算現額（円）		4,911,000		5,274,000										
	財源内訳	一般財源	4,880,000		5,233,000										
		特定財源等	31,000		41,000										
	支出済額（円）		4,015,649		4,944,409										
	不用額（円）		895,351		329,591										
執行率（％）		81.77%		93.75%								今後の取組方針		一般の入園者とは別に、より多くの市民に睡足軒の森を活用してもらうために、市内外の文化団体に市HP等で継続して周知を行う。また、文化事業の周知については、ポスターやチラシ、市HP及びLINE配信等で周知を行う。市民呈茶については協力者と調整をしながら、実施していく。文化事業については、参加者から演奏会などの開催希望があったため、事業内容の検討をした上で実施していく。申込方法に関して問題点を分析した結果、様々な年齢層の方々が申込可能になり、かつ職員負担軽減の観点から電子申請の導入を検討する。	
実施内容		市民団体・サークルの活動・コミュニケーションの場として、睡足軒・紅葉亭の施設の貸出しを行った。 また、市主催事業を以下のとおり行った。 ①市民呈茶…計3回実施。計352名の参加者 ②文化事業…落語2回、津軽三味線1回の計3回実施。計90名の参加者（各回30名の定員）													
年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度					
活動指標・成果指標	指標名	単位													
	市民呈茶	回	2		3										
	睡足軒・紅葉亭の施設利用	回	37		45										

第5次新座市総合計画実施計画 事務事業評価シート
(対象：令和6年度実施事業)

1 事業基礎情報（Plan）							3 事業評価（Check）														
基本政策		第2章 基本政策2 生きる力と生きがいを育むまち【教育文化】					事業の実施状況		B	A：計画以上に実施 B：計画どおりに実施 C：計画どおりに実施できず											
施策領域		第5節 文化芸術					事業の必要性 【市民ニーズ】		B	A：高まっている B：変わらない C：薄れている											
施策項目		施策2 文化財の保存・活用					事業の効率性 【見直す余地】		B	A：余地はない B：余地はある											
事業		歴史民俗資料館運営管理					施策への貢献度		B	A：貢献している B：やや貢献している C：貢献の度合いが低い											
所属		歴史民俗資料館					事業の成果・分析		年間の来館者数が前年度に比べ減少している。前年度は開館初年度であったこと、市内小学校の見学が6校から2校へ減少したことが理由として挙げられる。また、ウェブサイトの閲覧数は伸びているが、来館に結びついていない状況が見えてきている。企画展示は定期的に実施したが、準備不足で表面的な展示になってしまった。資料調査は、専門家に協力依頼し古文書を解読、展示に活用することができた。その他、絵画や民具等の寄贈もあり、展示に活用することができ、資料調査・活用ができた年度であった。												
事業概要		歴史民俗資料館複合施設に係る運営管理を行う。																			
実施形態		■市が直接実施 ■一部委託 □全部委託・指定管理 □その他																			
実施根拠		□国・県の制度 ■国・県の制度＋市独自の制度 □市独自の制度																			
根拠法令等		博物館法、新座市立歴史民俗資料館条例等																			
2 事業実績（Do）							4 事業の今後の方向性・取組方針（Action）														
年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度		今後の方向性		Ⅱ Ⅰ：事業規模拡大 Ⅱ：改善しながら継続 Ⅲ：現状のまま継続 Ⅳ：事業規模縮小 Ⅴ：事業廃止 Ⅵ：事業終了							
予算・決算	予算現額（円）		18,681,000		16,430,000																
	財源内訳	一般財源	18,681,000		16,430,000																
		特定財源等	0		0																
	支出済額（円）		17,880,129		15,579,323																
	不用額（円）		800,871		850,677																
執行率（％）		95.71%		94.82%																	
実施内容		全20回の特別展示及び企画展示、全12回の講演会・イベント等を実施した。講演会・イベント等の参加者数は計370人であった。また、市内小学校（2校213名）、市内外行政機関等（1団体23名）からの依頼による館内見学案内を実施した。収蔵品の整理、新規受入れについては、3件の寄贈申出があり、これを受領した。					今後の取組方針					来館者向けの年間展示スケジュールを作成し、企画展の準備と周知を早い段階から行うことで来館者の確保に努める。学校見学の機会が減少していることから、市内小学校に積極的に資料館を活用してもらうよう呼びかけ、展示室で使えるワークシートなどを充実させる。引き続き、定期的な展示替えやデジタルサイネージのコンテンツ追加、イベント等を継続して実施し、リピーターのみならず新規来館者の確保に一層努めていく。また、メディアやSNS等を活用し、積極的に情報発信を行うとともに、非来館者によるデジタルコンテンツの利用も、事業成果の指標として検討していきたい。収蔵庫については、開館時点ですでに飽和状態に近く、貴重な新資料の受入れが難しい状態が続いている。収蔵庫の整理を進め、あわせて館外に新たな収蔵スペースの確保を検討する必要がある。									
年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度											令和8年度		令和9年度		
活動指標・成果指標	指標名	単位																			
	年間来館者数	人	6,468		5,619																